

千葉県市川健康福祉センター発 いちうら感染症情報

「2023-11月①」 定期号

2023年11月9日配信

平素より地域の感染症対策にご協力いただきありがとうございます。

- ・医療機関向け情報には(医)を、一般施設向け情報には(一)をつけています。
- ・2023年第43週：10月23日～10月29日、第44週：10月30日～11月5日です。

ご覧いただく際に参考にしていただければ幸いです。

10月号第2回目の配信となります。原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。

1



全数報告感染症情報

※市川保健所管内の直近5週分の感染症発生動向状況は、メールの添付資料（「2023.40週～44週」.pdf）をご確認ください。

●管内の状況（報告のあった疾患のみ掲載しています）

2023年第43週、第44週

二類感染症	2週分	累計（年）
結核	2	69
三類感染症	2週分	累計（年）
腸管出血性大腸菌感染症	1	18

五類感染症	2週分	累計（年）
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	3

2



発生動向トピックス

●11月は、薬剤耐性（AMR）対策推進月間です。抗菌薬を正しく服用しましょう。

薬剤耐性（以下AMR）は、細菌が原因で引き起こされる病気に有効な抗菌薬が、効きにくくなる、または効かなくなることを言います。耐性菌が増えると、抗菌薬が効かなくなることから、これまで感染症にかかっても適切に治療すれば回復できた感染症の治療が難しくなり、重症化や死亡に至る可能性が高まります。

AMRを予防するためには、一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することが重要です。医師から指示された薬を、症状が軽くなったからと途中で止めてしまったり、量を減らして服用したりすると十分な効果が期待できずに、新たな耐性菌が出現するリスクが高まります。抗菌薬を服用する際には、医師や薬剤師の指示を守って、必要な量を適切に服用しましょう。また、医療現場では、ウイルスによる感染症をはじめとして、必要のない抗菌薬を処方しないという取り組みが重要です。

参考・引用

内閣府：抗菌薬が効かない「薬剤耐性AMR」が拡大！一人ひとりができることは？

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201611/2.html>

厚労省：薬剤耐性（AMR）対策について <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html>

厚労省：薬剤耐性対策アクションプラン(2023-2027)概要

https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/ap_gaiyou.pdf

●A型溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数が、増加傾向です。

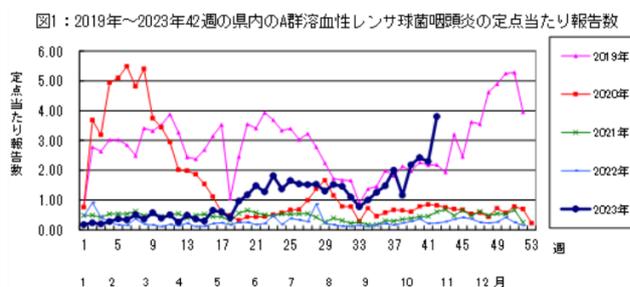
第42週に県内の小児科定点医療機関から報告されたA型溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たりの報告数が3.8(人)となりました。管内の定点あたり報告数も、前週と比較して大幅に増加し、3.54(人)となりました。A型溶血性レンサ球菌は、上気道炎や化膿性皮膚感染症などの原因菌としてよく見られるグラム陽性菌です。学童期の小児に最も多く、3歳以下や成人では典型的な臨床像を呈する症例は少ないです。

潜伏期は2～5日であり、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴うことがあります。感染予防策としては、唾やよだれの付着した食器やおもちゃを直接触らない、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染対策が有効です。

引用・参考

国立感染症研：A型溶血性レンサ球菌とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/340-group-a-streptococcus-intro.html>



●10月30日付けで、千葉県から「野田市内の保育園でノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生について」の報道発表がありました。感染対策を強化しましょう。

10月13日から20日までに園児、職員が嘔吐・下痢等の症状を呈し、保健所に連絡があり調査を実施。便検査の結果、ノロウイルスが検出され、10月27日までに、園児79名と職員9名合計88名の発症が確認されました。

詳細の内容につきまして、下記のホームページをご覧ください。

千葉県：感染性胃腸炎の集団発生について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2023/documents/231030press.pdf>

感染性胃腸炎は、通年で発生していますが、今後、特に多く発生する冬場から春先のシーズンを迎えます。感染性胃腸炎の予防策は、**こまめな手洗い・消毒**です。タオルの共有をせず、**ペーパータオルの使用が望ましい**です。**吐物や糞便の付着箇所は、適切な範囲(嘔吐では、嘔吐中心部より半径約2m)への0.1%の次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が必要です。**これからの流行に備えて、感染対策を強化しましょう。

参考・引用

千葉県：【ノロウイルス】感染症予防のための情報提供について(令和5年10月30日発表)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2023/norosyudan051030.html>

厚労省：ノロウイルスに関するQ&A <https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/001004061.pdf>

- 定点報告数(下図)は 2023 年第 43 週、第 44 週における定点各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめたものです。

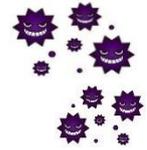
<市川保健所管内インフルエンザ発生状況>

(人)

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	440	0	0	0	14

※型非鑑別キット

(医療機関からの型報告なく不明な99例を除く)



- 臨時休業週報数(下図)は、2023 年第 43 週、第 44 週における学校等欠席者・感染症情報システムからの学級・学年閉鎖等をまとめたものです。

第 43 週

	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	計
保育所	0	0	0	0
幼稚園	0	0	0	0
小学校	0	1	34	35
中学校	0	0	17	17
高等学校	0	0	0	0
その他	0	0	0	1
計	0	1	51	53

第 44 週

	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	計
保育所	0	0	0	0
幼稚園	0	0	1	0
小学校	1	1	23	25
中学校	0	2	3	5
高等学校	0	0	1	1
その他	0	0	0	1
計	1	3	28	32

- インフルエンザによる報告数は減少傾向です。

第 43 週の県全体の定点当たり報告数は、29.25(人)でした。県内 16 保健所中 9 保健所管内(松戸、船橋市、習志野、印旛、香取、海匝、山武、長生、君津)で警報レベル(開始基準値: 定点当たり 30.0 人)を超えました。市川管内の報告数は、17.29(人)となりました(図 1)。

2023 年第 43 週に県内で報告のあった 5337 例のうち、A 型 5001 例、B 型 54 例と A 型が多いです。

また、昨シーズン(2022/23 シーズン)にインフルエンザ病原体定点医療機関から千葉県衛生研究所に搬入され、インフルエンザウイルスが検出された 141 検体の内訳は、A/H3 亜型が 124 検体(88%)と最も多く、次いで A/H1pdm09 亜型が 13 検体(9%)、B 型ビクトリア系統が 4 検体(3%)と続きました(図 2)。シーズン後半から A/H1pdm09 亜型の占める割合が増加しており、これは全国における検出傾向と合致します。

インフルエンザを予防する一般的な方法としては、以下があげられます。

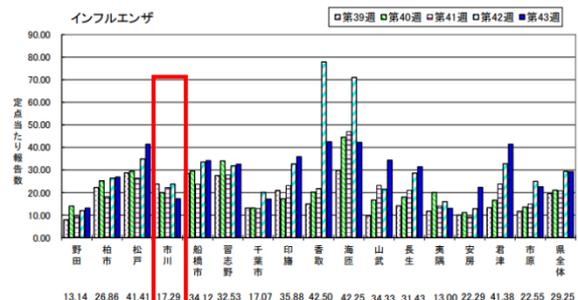


図3 2022/23シーズンのインフルエンザウイルス検出数と定点当たり報告数

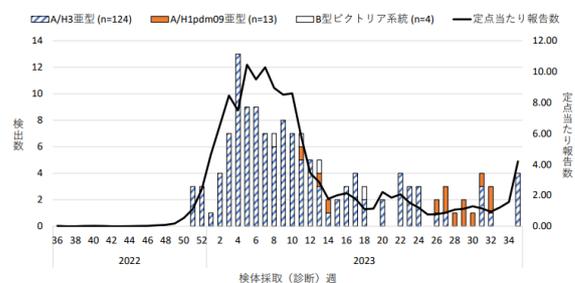


図2 2022/23シーズンのインフルエンザウイルス検出数と定点当たり報告数

- ①こまめな手洗い ②咳エチケット ③適度な湿度の保持 ④ワクチン接種
- ⑤十分な休養とバランスのとれた栄養摂取 ⑥人混みや繁華街への外出を控える
- ⑦室内ではこまめに換気する

さらに、施設内では流行時に健康観察の強化、手洗いの徹底、咳エチケットにご留意ください。

千葉県：インフルエンザ発生状況 <https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202343influenza.pdf>

4



新型コロナウイルス感染症

- 「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント(第3.0版)」が改訂されました。

COVID-19の罹患後症状に関する診療のアプローチ・フォローアップ方法などについて、診療の手引きの別冊として、罹患後症状について専門家の知見をとりまとめたものです。約1年ぶりの改定となり、最新の国内の研究の結果に加え、「罹患後症状を訴える患者へのアプローチ」「罹患後症状に関する診断書や意見書の記載例」など幅広く臨床で利用できる内容が盛り込まれています。詳細の内容については、下記のホームページをご覧ください。

参考

厚生省：新型コロナウイルス感染症診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001159305.pdf>

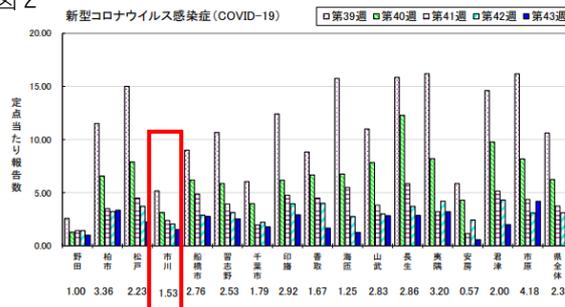
- 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です。

第43週の県全体の定点当たり報告数は、前週(2023年第42週)の3.11(人)から減少して、2.35(人)でした(図1)。報告数が多かった地域は、保健所管内別で市原4.18(人)、柏市3.36(人)、夷隅3.2(人)となりました。市川管内の報告数も、前週から減少して1.53(人)となっています(図2)。

図1



図2



新型コロナウイルス感染症対策のポイントは、以下があげられます。

- ①室内の換気 ②手洗い、手指消毒 ③マスクの着用を含む咳エチケット (特に、通院時や高齢者施設を訪問する時) ④環境消毒 (アルコールや次亜塩素酸ナトリウム)

さらに、施設内では流行時に健康観察の徹底、手洗いの徹底、咳エチケット、環境消毒の強化にご留意ください。

【参考・引用】

千葉県:新型コロナ感染者の発生状況 <https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202343covid19.pdf>

首相官邸:感染症対策へのご協力をお願いします(手洗い・咳エチケット) <https://corona.go.jp/prevention/pdf/kansen.pdf>

厚労省:新型コロナ 夏の感染対策のポイント https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kenkou-iryousoudan.html#h2_1

国立感染症研究所:新型コロナウイルス感染症サーベイランス速報・週報:発生動向の状況把握

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/12015-covid19-surveillance-report.html>

リーフレット「令和5年度 新型コロナワクチン接種についてのお知らせ」 <https://www.mhlw.go.jp/content/001068244.pdf>

厚労省:新型コロナウイルス感染症 一般向け Q&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

5



お 知 ら せ

HIV 抗体検査実施予定日

検査実施日: 12月7日 13:30~

(予約開始日は、11月27日 9時~)

検査内容: HIV、梅毒、クラミジア、淋菌、B型肝炎、C型肝炎

問い合わせ・予約方法: 市川保健所疾病対策課 電話にて要予約

* 検査実施に関する詳細、他日程につきましては、ホームページをご覧ください。

市川保健所: HIV 抗体検査・肝炎ウイルス検査のご案内

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kf-ichikawa/kenkousoudan/hiv.html>

千葉県では、休日街頭 HIV 検査も実施しております。検査実施に関する詳細、他日程につきましては下記のホームページをご覧ください。

千葉県: 休日街頭 HIV 検査 <https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kansenshou/kyuuujitu.html>



最後に

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまでご連絡をお願いします。
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることをご了解ください。
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任においてご利用ください。
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします。

【配信元】

千葉縣市川健康福祉センター (市川保健所)

いちうら感染症情報

ichiurainf@pref.chiba.lg.jp

